

第一学院  
高等学校  
四ツ谷キャンパス

## 社会人と接する機会を創出 「働く」イメージを実感

第一学院高等学校 四ツ谷キャンパス（東京都千代田区、中根延也キャンパス長）は、単なる教科教育や在籍期間のみの機械的な指導にとどまらず、生徒の適性や将来設計を重視し、一人ひとりの「将来の自己像」を明確にし、その実現のための指導および支援に力を入れている。



同校の就職者数は1割強だという。「個性に合わせてようとし過ぎて指導方法に悩むこともあります」と、藤原公博教諭は明かす。

就職志望者に対しては3年次に進路に関するガイダンスなどを行い、キャリア教育を取り入れるほか、1・2年次までは同校独自の「コミュニティ共育」を取り入れている。「いまの生徒たちは大人と接する機会が保護者や学校の教職員などに限られています。本校ではそれ以外の、例えば地域市民を学校に招いた

り、ボランティア活動などに参加させたりしています。そうした機会を通して、まずは働くことに対するイメージを生徒に持たせようとしているのです」と、独自の取り組みの真意を語る。

一方、企業とのマッチングにも課題があるのだという。「就職後、会社になじむことができず、離職する者もいます。企業の人事・採用担当者には“明るく元気な人がいい”とか“コツコツと頑張れる人がいい”など、実際に求めている人物像のお話をいただくことができれば、こちらからもマッチングするための情報提供ができるのではないかと思います」と、提案した。